

東京大学大学院農学生命科学研究科  
生物・環境工学専攻（生物環境情報工学研究室） 教授 公募

1	職名	教授
2	募集人数	1名
3	採用予定日	令和6年3月1日以降
4	任期	なし
5	勤務地	東京都文京区弥生1-1-1 弥生キャンパス
6	所属□	大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻 生物環境情報工学研究室
7	業務内容	<p>1) 研究領域：「生物環境情報工学」 情報工学の手法を駆使して、細胞レベルから植物個体や群落のスケール、さらに、生態系や生物圏などの地域・地球環境スケールの情報を取得・解析することにより、生物と環境の関係を解明する研究領域</p> <p>2) 学部科目の担当：生物環境情報工学、情報処理演習、生体計測情報学、環境と生物の情報科学、水と土の環境科学</p> <p>3) 大学院科目の担当：生物・環境工学特別研究Ⅰ、生物・環境工学実験実習、生物・環境工学演習、生物・環境工学特別研究Ⅱ、生物・環境工学特別実験実習、生物環境情報工学特論Ⅰ、生物環境情報工学特論Ⅱ、生物環境基礎工学、農学における情報利用ゼミナール</p>
8	就業時間	専門業務型裁量労働制（1日7時間45分働いたものとみなされます。）
9	休日・休暇	土・日、祝日法に基づく休日、年末年始（12月29日～1月3日） 年次有給休暇、特別休暇、忌引休暇 等
10	給与	学歴・職務経験等を考慮して決定。昇給制度あり。 参考 博士修了/34万円～ 諸手当、賞与（年2回）、通勤手当（原則55,000円まで）の他、本学の定めるところによる。
11	社会保険等	文部科学省共済組合、雇用保険（法令の定めるところにより加入）
12	応募資格□	<p>1) 博士号取得者。</p> <p>2) 上記の研究領域で優れた研究業績を有し、独創的かつ高水準な研究を展開するとともに、学生の教育・研究指導等を積極的に行うことができる者。</p> <p>3) 研究科や専攻の組織運営に積極的に参画し、多様な研究分野の教員と協力して教育・研究に取り組める者</p> <p>4) 上記7の講義・演習・実験を日本語と英語で担当可能な者。</p> <p>5) 国際的視点に立った教育研究活動や産官等との社会連携を積極的に展開できる能力と熱意を有すること。</p>
13	提出書類	<p>1) 履歴書（東京大学統一履歴書を以下のURLからダウンロードし作成すること。） <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/jobs/r01.html">https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/jobs/r01.html</a></p> <p>2) 業績リスト(学位論文, 原著論文, 著書, 総説, その他)</p> <p>3) 主要論文別刷5編以内</p> <p>4) 教育業績</p> <p>5) 競争的資金の獲得状況(過去5年程度)</p> <p>6) 社会貢献(学会活動, 委員会活動等)</p> <p>7) これまでの研究概要(1500字程度)</p> <p>8) 着任後の研究方針(1500字程度)</p> <p>9) 着任後の学生・大学院生に対する教育方針と抱負(1500字程度)</p>
14	応募締切	令和5年12月8日(金) 必着 書類選考の合格者に対して面接を実施します。
		〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

15	書類送付先 及び 問い合わせ先	<p>東京大学大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻 担当：専攻長 吉田修一郎 TEL：03-5841-5344 E-mail：agyoshi[at]mail.ecc.u-tokyo.ac.jp（[at]は@に置き換えてください）</p> <p>※全書類はPDFファイル一式としてパスワードをかけ、電子メールで送付のこと。メールの表題には、教授応募書類と記載すること。応募書類の総ファイルサイズが50MBを超える場合は、複数のメールに分けて送り、各メールの添付が50MBを超えないこと。また、担当からの書類の受領メールを確認すること。</p>
16	試用期間	採用日から6ヶ月間
17	募集者名称	国立大学法人東京大学
18	その他	<p>応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。</p> <p>取得した個人情報は、本人事選考以外の目的には利用しません。</p> <p>東京大学は男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募を歓迎します。</p> <p>受動喫煙防止措置の状況：敷地内禁煙（屋外に喫煙場所あり）</p> <p>外為法等の定めにより、採用時点で、海外との兼業や、外国政府等からの多額の収入がある場合、研究上の技術の共有が制限され、本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があります。このような場合、兼業等については、本学における研究上の技術の共有に支障のない範囲に留める必要があります。</p> <p>英語・日本語の能力を考慮します。</p>